

出 発 堀

点 文 子

女子美からはじまる写生帖・下図・本画

女子美アートミュージアム 開館25周年記念特別展



今ははるかに、の
思い出す事も定かでない 遠い時代の事だが、
絵を描く事、日本画とは何だ という問いを思いつめた、

それが私の 出発点であったことは たしかである。『思い出』女子美術 創立70周年記念号「同窓会報 No.21」1971年より

前期 2026 5 | 22 fri - 6 | 27 sat 7 | 2 thu - 8 | 4 tue
後期

開館時間：10:00-17:00(入館は16:30まで) ※ただし、初日の5月22日は11:00開館 休館日：日曜・祝日 ※7月19日(日)・20日(月・祝)は特別開館
観覧料：500円 ※大学生以下(大学院・専門学生を含む学生証提示者)・障がい者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名は無料でご覧いただけます。
主催：女子美術大学、女子美術大学美術館 特別協力：一般財団法人堀文子記念館、株式会社ナカジマアート
協力：並崎大村美術館、株式会社米ハグループ 後援：相模原市、相模原市教育委員会、神奈川県新聞社、株式会社タウンニュース社相模原支社



女子美アートミュージアム



堀文子生誕記念 無料観覧デー & ポストカード先着50名様へプレゼント!

作家の誕生日を記念して、美術館受付にて
ポストカードを配布します。
7月2日(木) 後期展初日 10:00-(先着順・無くなり次第配布終了)

毎月「23」は「文(ふみ)子」の日! 無料観覧デー

会期中の23日は、どなたでも無料でご観覧いただけます。
5月23日(土)、6月23日(火)、7月23日(木) (全3回実施)

連携企画 平塚市美術館×女子美アートミュージアム

観覧券の半券が「割引券」「プレゼント券」に変わる!

企画1: 観覧料割引またはプレゼント

平塚市美術館「特集展 花の表現、その多様性/
特別展 新収蔵品展」
[前期] 2026年4月18日(土)-6月28日(日)
[後期] 6月30日(火)-8月30日(日)
堀文子展の観覧券の半券提示で観覧料割引。
当館では、平塚市美術館の「花の表現、その多様性」
観覧券の半券提示でポストカードをプレゼント。

企画2: スタンプラリー

2館にあるスタンプを重ねて捺すとオリジナルの
ポストカードが完成します。



6 《妖精(クリオネ)と遊ぶ》2003年
株式会社米ハグループ蔵
表《アフガンの王女》2003年
個人蔵(並崎大村美術館寄託)
裏《アフガンの王女》大下図
※ 作品に関連する下図を掲載
3の下図(上)、4、5の下図および
《アフガンの王女》大下図
撮影：宮下晃久



交通案内

- 1 小田急線相模大野駅北口3番バスのりばから
神奈川中央交通「女子美術大学」行き終点下車(約20分)
※平日・土曜日の午前10時前は
「グリーンホール前」4番バスのりばから乗車
- 2 JR横浜線古淵駅2番バスのりばから
神奈川中央交通「女子美術大学」行き終点下車(約15分)
車でこ米館の方は隣接する市立相模原麻溝公園内の
各駐車場をご利用ください。
・身障者用駐車場をご利用の際は、前日までに
下記へご連絡ください。

女子美アートミュージアム
〒252-8538 神奈川県相模原市南区麻溝台1900
女子美術大学相模原キャンパス10号館1階
Mail: bsk@venus.joshibi.jp
Tel: 042-778-6801 Fax: 042-778-6815
<https://www.joshibi.net/museum/>



1

100年の生涯を絵筆に捧げ、「命の画家」と称された日本画家・堀文子(1918-2019)。その創作の原動力となったのは、冒険家のような好奇心と、科学者のような探究心です。日々の感動を刻みつけた膨大な数のスケッチや、計算し尽くされた緻密な下図の数々に、その息吹を感じることができます。

このたびの展覧会に際し、当館では一般財団法人堀文子記念館より預かりました資料の調査を実施しました。

約1万2千点にも及ぶ資料の中から、本画に加え、創作の過程で生み出された貴重な下図や写生帖を、かつてない規模で一挙公開します。画家が画業の「出発点」と語る女子美術専門学校(現・女子美術大学)時代の作品から晩年までの主要作品と、創造の「出発点」といえる小下図・素描などをあわせて展示します。

本展は、単に完成された絵画を鑑賞するだけでなく、ひとりの画家がいかにして制作し、生命の息吹を絵画に宿していたのか、その驚くべきプロセスを解き明かす試みです。

堀文子は1918年、東京に生まれます。1936年から

女子美術専門学校師範科日本画部で学び、若くして頭角を現します。創造美術(現・創画会)での活躍、上村松園賞の受賞など、新時代の旗手として注目を集めました。50歳を目前に大磯へ移住。その後も軽井沢、イタリア・トスカーナ地方にアトリエを持ち行き来。さらには80歳を超えてなお、幻の花ブルーポービーを求めてヒマラヤへと足を運ぶなど、新たな表現への挑戦を生涯貫きました。2011年には女子美術大学より名誉博士号を授与され、2019年に100歳で人生の幕を閉じました。

堀文子が晩年を過ごした大磯町には、堀が私財を投じて守り抜いた樹齢300年を超える「ホルトの木」があります。その木の苗木が2014年、本学相模原キャンパスに植樹されました。この木は、堀文子と女子美を繋ぐ生命の象徴であり、画家の「自然」と「生命」への深い敬意が、未来の学生たちへと脈々と受け継がれていることを物語っています。

堀文子の志を宿し、大きく枝を広げた「ホルトの木」。この女子美で彼女の足跡を辿るとき、私たちは、尽きることのない人間の魅力と、孤高の筆致が切り拓いた独創的な世界を再発見するでしょう。

堀文子の出発点

女子美からはじまる写生帖・下図・本画

ただ確かな事は、
無駄の中にこそ真理と
美があるということ。
TOSHIBU 100年より



2



3

人は決して人だけから
学びはしない。
樹や草や月や嵐からの
教えて私達は育てられ、
大人になるのだ。
「一本の木」堀文子画文集季「
一九八四年より

- 1 《自画像》1939年
 - 2 《月と猫》1950年頃
 - 3 《冬の詩》1988年
 - 4 《幻の花 ブルーポービー》2001年
 - 5 《奇い鳥を運ぶブルカの女(マドンナ)》2002年
- 2・5は株式会社米八グループ蔵
※各作品に関連する下図を右に掲載

女子美アートミュージアム
開館25周年記念特別展

一茎の花を写生する
ことよって
どんな絶望からも
救われることができる
でしょう。

特集《スケッチブック拝見》
「美術手帖」一九五六年五月号より



4



ものを育てることね。
種をまくことね。
生命というものに、
驚くことです、いっぱい。
「婦人之友」二〇一六年十二月より

関連イベント



トークイベント
「堀文子を語る」*

檀ふみ氏 俳優 × 小倉文子 本学学長

6月26日(金) 13:20-14:50
2号館2階224教室(相模原キャンパス内)
定員: 100名(応募者多数の場合は抽選)
6月5日(金) 応募締切、
6月12日(金) までに結果を通知します。

学芸員による
スライドトーク*

7月4日(土) 14:00-15:00
10号館1階1011スタジオ
(美術館建物内)

学芸員による
ギャラリートーク

7月20日(月・祝) 14:00-
(30分程度)
展示室入口集合

本学学生による
ワークショップ*

7月25日(土) 14:00-
10号館1階1011スタジオ
(美術館建物内)

何十年もかけて
たまったスケッチは
私の血肉であり、
再び戻ることの出来ない
生きた日々の痕跡だったのだ。
「私とスケッチ」
「サライ」24号 二〇〇六年より

*の表記のあるイベントは
事前申込が必要です。
すべて参加費無料(ただし観覧券
をご提示ください。半券可。)
イベントは都合により変更となる
場合があります。
各イベント申込方法・詳細・
最新情報は当館ウェブサイトへ
ご確認ください。



ホルトの木(2026年)
撮影: 女子美術大学広報グループ